

東武医学技術専門学校

水野 貴之 石橋 佳朋 城田 恵次郎

I. 沿革

東武医学技術専門学校(以下、本校)は、1970年に埼玉県岩槻市(現：さいたま市岩槻区)郊外に校舎を設立し、1971年に厚生大臣(現：厚生労働大臣)の認可により開校した(学校番号 009、学生定員 1 学級 40 名、修業年限 3 年)。1975年に学則一部を変更し、学生定員を 2 学級 80 名とした。1986年には私立学校法第 64 条の第 5 項に合致し学校法人となり、1987年には医療情報科(現：医療ビジネス科)を新設した(学生定員 40 名、修業年限 2 年)。2004年には、調剤報酬請求事務専門士検定協会より養成校第 1 号として認定を受け(医療ビジネス科)、2008年には、健康食品管理士認定協会より、健康食品管理士養成指定校としての認定を受けている(臨床検査科)。本校が開校して平成 22 年度で 40 周年を迎え、開校以来現在まで延べ 2,434 人(平成 22 年 4 月現在)の卒業生を医療界に輩出している。

II. 特徴

本校は、「医療に関する知識と技能を修得し、あわせて情緒豊かな人間性を養い、社会に有用な人材を育成することを目標とする」という教育目標に基づき、教育活動を行っている。

その教育方針の基、人の役に立ちたい、医療職に携わりたいといった主体的な意思を持つ学生が入学している。その中で本校の学生の一つの特徴として、開校以来、埼玉県をはじめ、関東地方だ

けでなく、東北地方、甲信地区、また北は北海道から南は沖縄県まで卒業生は元より在校生が集まってきており、在校生は一つ屋根の下で勉学に励んでいる。また、卒業生による同窓会活動も各地区で盛んに行われている。

教職員と学生間との距離の近さは、本校の特徴の一つであり、また本校のイメージとなっている。これは、歴代の伝統の校風であると共に、学校長以下、開かれた教務・事務を実践している本校の宝ともいえる。学生ロビーや教務室、事務室をはじめ学内の様々な場所において、学生と教職員が談話・相談している姿は日常茶飯事にみられる光景である。

III. 学校行事

入学式直後、新入生軽井沢研修旅行から本校の学生生活がスタートし、前期・後期球技大会、学園祭、第 2 学年の(主に海外等)研修旅行、第 3 学年が第 1 学年を指導・引率する臨地実習施設の見学会、学術研究発表会等が講義と実習以外に行われる主な行事である。軽井沢研修旅行においては、新入生同士が静かな環境にあるリゾートホテルでオリエンテーションを初め学外での 1 泊 2 日という寝食を共にすることで、自然と仲間意識が芽生えたと共に、研修を通して、将来医療界に貢献したいという目的意識の再確認をしたとの感想を学生から聞いている。

研修旅行や臨地実習および各施設の見学会を除き、原則、各行事とも学生が主体となって構成運



写真1 軽井沢研修旅行にて



写真2 オーストラリア研修 (Royal North Shore Hospital にて)

営し、その組織として自治会が存在する。基本構成としては、運営を担当する自治会役員をはじめ、全校の学生は全員同好会に所属している。同好会の活動としては、第2学年を中心に学園祭での研究発表、体験コーナー運営、ステージでの催し物、模擬店運営、学術研究発表会などの発表公開を行っている。球技大会では、校外のスポーツ施設を借り、バスケットボール、バレーボールをはじめとした球技や障害物、二人三脚といったチーム対抗戦が2日間にわたり行われ熱戦が繰り広げられている。後期には臨地実習を修了した第3学年も加わり、より白熱した球技大会となる。プレーする側、応援する側がそれぞれ真剣勝負を行うことで、より一層の団結力が生まれ、普段の授業ではみられない学生の新たな一面が発見できる行事でもあると言える。

学園祭も、各年の学年の色が鮮明に現れる行事である。研究発表、体験コーナー、模擬店、ステージ発表、後夜祭など学生の個性がより発揮されている。また教職員の出し物もあり、学校全体が一つになり行事に取り組み、結果としてそれが学校全体の団結力を生む源にもなっている。

第2学年における研修旅行では、これまでアメリカ、オーストラリアで開催され、本年度は沖縄にて研修を行う予定となっている。特にここ近年はオーストラリアでの5泊7日の研修であった。現地では、研修として州立高度技術専門学校 (Technical and Further Education) 及び New South Wales 大学 (UNSW) での講義をはじめ、病院においてオーストラリアでの検査技師制度についての説明や実際の検査室の見学を行わせていただいた。同じ検査技師であっても海外での制度の違いから

表 第3回 学術研究発表会での発表演題

演 題	発表者
「登録販売者」	医療ビジネス同好会
「HE 染色について」	病理学同好会
「BMI と MCV について」	血液学同好会
「遺伝子変異による血中アディポネクチン値変化」	遺伝子学同好会
「手洗いの効果と実習室に生息している細菌」	微生物学同好会
「HbA _{1c} と BMI の相関性」	生理学同好会
「血中脂質の改善と運動実践」	生化学同好会
「オーストラリア海外研修報告」	海外研修文集編集委員
「骨密度と食事及び運動の相関性について」	臨床検査科 第3学年
「日内変動を有する検査項目」	
「LDL-コレステロールの実測値と計算値の相関性について」	
「採血条件による検査値への影響」	
「ヘリコバクター・ピロリーについて」	
「胎盤の病理学的検査について」	
「貧血について」	

くる業務の違いも新たな発見の一つでもあったという声が、学生から多くみられた。また5泊7日という長期間での研修、そして海外ということもあり、本校の中でも一番の思い出として残っている行事の一つである。研修はもちろんのこと、海外のさまざまな文化に触れ、また学友との共通の時間を過ごすことでより一層強い絆が築かれている。

IV. 研究活動

本校では、研究室という形ではないが、第1学年から第2学年を中心に自治会役員以外は、生理同好会、生化学同好会、血液学同好会、遺伝子学同好会、微生物学同好会、病理学同好会、医療ビジネス同好会の各同好会に所属し、同好会ごとに研究を行っている。また第3学年でも臨地実習で研究を行わせていただいている施設もある。9月の学園祭での研究発表は、同好会ごとのパネルディスカッションの発表を行い、11月の学術研究発表会は、スライドを用いた口演形式の発表を行っている。学術研究発表会は、学外の会場で行い、その中で有意義な発表については、研究を奨励するため、優等賞等の授与を行っている。

同好会は、4月から9月にかけて第2学年を中心に研究を行っており、昨年は、表に示したような発表を行っている。

同好会(生化学)の研究を臨地実習でも継続して研究を行わせていただき、第42回関東甲信地区医学検査学会(「食後の血糖値上昇を抑制する食品の検討」)や、第35回埼玉県医学検査学会(「牛乳の負荷による血糖値とインスリン分泌の検討」、「食後の血糖値上昇を抑制する食品の検討」、「血糖自己測定器の精度に関する検討」)の報告も行った。

また、本校では専門学校のみを持つ学校法人として初めての紀要を発行し、これまでに14巻発行(毎年発行)を行っている。紀要の投稿は、教職員を始めとして、本校の非常勤講師、学生からの投稿も受け付けている。2010年の紀要では、第1学年(現:2年生)の学生からも「風疹ウィルスと先天性形態異常との関連性について」など3題が掲載されている。

このような研究活動を通して、学生が文献を検索する方法と、それを基に発表をまとめ、パネルディスカッションや口演形式で、人前で発表を行うことは、表現力、理解力、知見を広め、将来、医療現場においても必ず生かされるものであろう。本校は、国家試験の合格率を向上させることはもちろんのこと、併せて学生の学術を推奨し、各学会等への発表や、紀要や医学雑誌等への投稿を積極的に行わせていきたいと考えている。